

2014 アジアジュニアカデ選手権結果報告

第3日目/3月10日(月)

《団体戦》

【カデ女子フルール】

<最終結果 1位~3位>7ヶ国参加

- 1位 中国
- 2位 日本
- 3位 シンガポール
- 3位 香港

<日本選手>

- 溝口礼菜(松戸柿の木台スケルマ)
- 辻すみれ(岐阜聖徳学園大学附属中学校)
- 梅津春香(JOC エリートアカデミー/帝京高等学校)
- 登尾早奈(三島フェンシングクラブ)

<T8>

日本 V45 対 6 ヨルダン

<セミファイナル>

日本 V45 対 41 シンガポール

<ファイナル>

日本 20 対 V45 中国/日本-敗退

女子フルールは初戦ヨルダン戦を問題なく勝利し準決勝に進出した。準決勝ではシンガポールと対戦、終始リードをしたまま勝利するが、予断を許さない状況であった。シンガポールチームはドイツから2名のコーチを招聘し強化にあたっている。今後の動向にも注意が必要だと思われる。

決勝では中国と対戦、中盤まで点差を付けられないよう試合を運ぶが、残念ながら終盤に点差がつき敗退した。今大会出場した4名の選手とも最後まで善戦をした。今後につながる経験ができたと思われる。

【カデ男子エペ】

<最終結果/1位~3位>13ヶ国参加

- 1位 中国
- 2位 ウズベキスタン

3位 日本

3位 香港

<日本選手>

- 古俣 聖 (新潟第一高等学校)
- 加納虹輝 (岩国工業高等学校)
- 川北信海 (愛知工業大学附属高等学校)
- 西沢 樹 (本郷高等学校)

<T8> (T16 はシード)

日本 V45 対 38 イラン

<セミファイナル>

日本 40 対 V45 ウズベキスタン/日本-敗退

「総括」

個人戦においてベスト 8 が 2 名いたこともあり 2 番シードを勝ち取る事ができた。初戦からメダルをかけた試合となったがシードという事もあり対戦国の試合を観戦しながら対策を練る事ができた。

日本チームは初戦ということもあり序盤リードを許してしまうが、古俣、西沢、川北の踏ん張り対策を上手く活用し終盤に追いつきリードを奪い逃げ切った。

準決勝では初戦と同じくリードを許してしまう試合展開となった。だが、古俣、川北が食らいつき最終セットを残し同点に追いついた。シーソーゲームが何点か続いたが、最後に離され時間がなくなり追いくことができずに敗退してしまった。

改善しなければならない点は序盤の試合展開をリードされて試合が進んでいくのではなくリードする展開に変える事だ。そのためには、リレーの試合の経験がまだまだ必要だと思う。また、序盤の一人一人の役割も戦略として必要だと感じた。

【カデ男子サーブル】

<最終結果/1 位～3 位> 10ヶ国参加

1位 中国

2位 クウエート

3位 日本

3位 チャイニーズタイペイ

<日本選手>

- 高澤和樹 (埼玉栄高等学校)
- 小山桂史 (岐阜聖徳大学附属中学校)
- 清水紀宏 (JOC エリートアカデミー/帝京高等学校)

<T8>

日本 V45 対 34 香港

<セミファイナル>

日本 V45 対 32 クウェート/日本-敗退

香港戦では、相手の動きを先に見ることができ、相手がさがればアタックにいき、相手がアタックにきたところをパラード・リポストや相手のアタック・ノンから切り返しのアタックでポイントを取ることができ序盤にリードを広げることができた。

中盤、終盤と連続ポイントを取られ、流れが香港にいきそうになったが、最初に決めたプレ・アレの入り方を徹底することで迷いや動揺することなく、落ち着いてプレーできていた。特に、清水、小山に関しては、個人戦の悔しい思いを団体戦にぶつけている姿がみられ、気持ちの面でも強かった。

クウェート戦では、個人戦で2位なった選手がおり、その選手にだけロースコアになってしまい中盤から終盤にかけてリードを広げられてしまった。初戦の香港戦と同様にプレ・アレの入り方を徹底してやることでポイントを取ることができた。

今大会を振り返ると、個人戦での課題を2日後に行われた団体戦で修正、対応することができ成長のある試合であった。また3人のチームワークも良く、団体戦の結果にも大きく影響したと思う。